

2019年度活動報告書

三輪眞弘 / 教授

今年度の活動

学長として3年目も、岐阜県、大垣市、ソフトピア、公立大学協会などに関連する多くの会合や式典に出席するなど大学の発展に努力し、また博士課程設置の申請を果たした。創作活動は今年度も多くはなかったが新作2作品を発表することができた。しかし、2020年に予定されていた豊中市でのフェスティバルのプロデュースや新作発表、横浜市でのコンサートにおける再演などはすべてコロナウイルス感染拡大の影響で中止となった



【CD】山田岳「メロディア」に新作「録楽のための《七ヶ岳の Rondó》」を収録

学外の活動

作品発表

- ・ 9/14 サラマンカホール、「ぎふ未来音楽展2019 ガラ・コンサート&シンポジウム」で「箏と風鈴のための、もんじゅはかたる」を世界初演
- ・ 2/24 IAMAS 2020展、タイムベースドメディア・ガムランコンサートで「IAMAS校歌」を再演
- ・ 日本の作曲家2020「大井 浩明 ピアノリサイタル」で「虹機械 公案-001」を再演

講演、その他

- ・ 9/14 サラマンカホール、「ぎふ未来音楽展」シンポジウム「劇場音楽の未来を考える」に登壇
- ・ 12/16 愛知大学、シンポジウム「学問・文化・芸術の自由について」で講演
- ・ 京都大学人文科学研究所「21世紀の人文学 - Our Ageを問う」研究班、班員
- ・ 京都大学人文科学研究所「「システム内存在としての世界」についてのアートを媒介とする文理融合的研究」研究班、班長

教育活動

- ・ 8/5 - 9 東京藝術大学「Max サマースクール・イン・藝大」で授業（「蛇居拳拍子」を再演）
- ・ 11/ 30 - 12/1 尚美学園大学インターカレッジ・ソニックアーツ・フェスティバル 2019にIAMASとして参加

パブリケーション

書籍：

- ・ 12/15 「人工知能美学芸術展 記録集」に寄稿（三輪真弘「形式言語による“詩”」）。
編・著・発行：人工知能美学芸術研究会
- ・ 3/31 「記憶の劇場」第4章 “オペラ「新しい時代」再演をめぐる三年間”（伊東信宏）
大阪大学社会学共創叢書3

録音：

- ・ 2/ 7 【CD】山田岳「メロディア」に新作「録楽のための《セヶ岳のロンド》」を収録

新聞・雑誌：

- ・ 8/10 「こころの未来 vol.21」に「フォルマント兄弟インタビュー 人工音声の向こうに誰がいるのか？
三輪真弘+佐近田展康+吉岡 洋」を掲載。京都大学こころの未来研究センター発行
- ・ 4/11 中日新聞インタビュー記事「生誕250年ベートーベンのピアノ曲 現代作曲家三輪真弘に聞く」
を掲載

放送・ウェブ：

- ・ 3/ 2 「メディアアートを育む学校 file2. 情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] : 三輪真弘×伊村靖子」
（前編+後編） <https://mediag.bunka.go.jp/article/article-16043/>

社会的活動

- ・ 先端芸術音楽創作学会インターカレッジ・ソニックアーツ・フェスティバル運営委員
- ・ 清流の国ぎふ芸術祭 Art Award IN THE CUBE 2020企画委員
- ・ 日本作曲家協議会理事
- ・ 日本作曲家協議会「JFC作曲賞」審査員 (11/22)
- ・ 豊中市立文化芸術センター「身体のTRANCE 人力芸術祭」をプロデュース (2/29 公演は中止)
- ・ 日本の作曲家2020「大井 浩明 ピアノリサイタル」企画担当 (3/15)
- ・ 日本電子音楽協会副会長
- ・ 入野賞審査委員
- ・ ソフトピア、大垣市、岐阜県関係の役職多数

受賞

学内での活動

- ・ プロジェクト：タイムベースドメディア・プロジェクト代表
- ・ IAMASガムラン楽団（仮名）の結成、運営、演奏（プロジェクトとして）
- ・ 担当授業：芸術特論A、特別研究（作品制作、論文指導）
- ・ 個人プロジェクト：作曲、執筆ほか
- ・ 学内での役割：学長として精進した（特に博士課程新設申請に向けて）